

### 初心に戻り、新たなスタートを！ ～自分たちの手でよりよい園に～



子どもたちも一緒に手を合わせます

皆さん、こんにちは。日本は秋も終盤を迎え冬に近づき、すっかり寒くなった頃ではないでしょうか。カンボジアも夜になると、日中の暑さがうそのように肌寒く感じられます。

カンボジアの新学期は、小中学校が10月19日から始まりました。久しぶりに学校に行くことが出来て皆とても嬉しそうです。私たち職員も子どもたちの「行ってきます！」という元気な声を聞くことで、気持ちの良い一日を始めることができます。

さて、今回のドリーム通信ではお盆での一時帰省の様子と、新しく決まった生徒会役員、委員会役員を紹介します。

#### お盆一時帰省

カンボジアのお盆は1年の中で最も重要とされている仏教行事で、カンボジアの人々はこの期間中に何件ものお寺を参拝し、先祖を敬いお供え物を捧げるそうです。今年のお盆は11日、12日、13日の3日間でした。

園では4月のお正月と10月のお盆の年に2回、育ての親の家へ1週間の一時帰省を行っています。年に2回しかないこの一時帰省を子どもたちは毎回とても楽しみにしています。

一時帰省は、久しぶりに再会する育ての親への近況報告など、たくさん会話をする機会にしてほしい、また子どもたちには園に来る前の生活を思い出し、今の園での生活や自分自身を改めて見つめ直すきっかけになってほしいという願いが込められています。

帰省前には持ち物や注意事項を確認し、そして「毎日家のお手伝いをする事」を子どもたちと約束しました。

今回は8日と9日の2日間に分かれ、育ての親の元へと子どもたちを送り届けました。家では家族や親せき、近所の人々がたくさん集まり、子どもたちの帰りを皆楽しみに待っていました。職員から子どもたちの園での様子や学校の成績について話をします。職員の口から「勉強を頑張っている」「小さい子の面倒を良く見ている」等の良い評価を聞き、「頑張っているね」



園の友だちとも暫くのお別れです



半年ぶりの再会に喜び合います





職員から園の様子と成績を伝えます

と褒めてもらった時の子どもたちの嬉しそうな表情がとても印象的でした。そして注意が必要な部分は、家でも改めて指導してほしいとお願いしました。

あっという間に一週間が経ち、17日の朝に職員がそれぞれの家までお迎えに行きました。子どもたちは育ての親に感謝の気持ちを込めてお別れの挨拶をしました。帰りのバスの中や園に帰ってからは、家族とお寺に行った事や、友だちと遊びに行ってきた事など、お喋りが止まりませんでした。日記にも帰省中の楽しかった出来事や、お手伝いした内容、園での生活や将来の話等、育ての親と話した内容が書かれていました。



満面の笑顔！喜びが伝わってきます

子どもたちは今回の帰省を通して、育ての親に対して感謝の気持ちを持ち、また過去を振り返る事で今の園での生活は決して当たり前のもではなく、たくさんの人に支えられているという事に改めて気付くことができたのではないかと思います。

新学年となり学校が始まりましたが、また気持ちを新たに勉強や農作業やお手伝い等、何事にも一生懸命取り組み、次の一時帰省では今よりももっと成長した姿を見せられるように、一日一日を大切に過ごしてほしいと願います。

### 生徒会選挙

10月18日に、第4回生徒会選挙が行われました。

生徒会とは、子どもたちが自分たちの生活している園をより良くする為にはどうしたら良いのかを子どもたちが主体となって考える事を目的として始まりました。

生徒会長1名、副会長2名を子どもたちの投票によって決定します。投票の結果、今年度の生徒会長は高校2年生のトム・ティアン、副会長は高校3年生のメン・スレイキアンと高校2年生のドン・ダライに決まりました。この3人の日々何事に対しても真面目に取り組む姿が、他の子どもたちから多くの信頼を集めました。

選ばれた3人は園がもっと良くなるために、力を合わせて頑張っていくと一人ひとり抱負を述べました。

そしてこの生徒会3名により委員会メンバーの選出を行います。園では農作業、イベント、自転車等の必要な仕事を分担するため7つの委員会も設けています。大きい子が小さい子に指導出来るように、さまざまな事を考慮しメンバーを決めます。

今園で起きている問題を発見し、皆で話し合い新しいルール作ったり、子どもたち同士で呼びかけ、助け合いながら一つ一つ解決していきます。

仕事に責任を持つこと、問題を発見し解決すること、人に指導することなど、社会に出た時に必ず必要になる力をここで身につけてほしいと思います。職員も近くで見守りながら、サポートしていきたいと思っています。



選ばれし新しい生徒会役員



「がんばります」と意気込む委員長